

死の原因と神による解決

そもそも、なぜ人は死なねばならないのでしょうか。本当に神が存在するとしたら、なぜ神は人を死なせるのでしょうか。

聖書には、死の原因は何か、神がどのような解決の道を用意しているのか、それを受け取るために人はどうしたらよいのか、はっきりと教えられています。

セミナーで、その答えを確認してみませんか

テーマ：「三つの死、その原因と神による解決」

日 時：2025年11月9日（日） 午前10時半～午後3時半

場 所：福岡県みやま市瀬高町大江「舞ハウス」

参加無料 お問い合わせは

熊本聖書フォーラム のホームページからどうぞ

<https://seishoforum.net/kumamoto/top/>

聖書のことばを あなたに

祝宴の家に行くよりは、
喪中の家に行くほうがよい。
そこには、すべての人の終わりがあり、
生きている者が
それを心に留めるようになるからだ。

（聖書 伝道者の書 7章2節）



喪中の家へ行くほうがよい

死は決して喜ばしいものではありません。しかし、葬儀に参列するとき、私たちは厳粛な思いになります。それは、自分の生き方を振り返り、残された時間をどう生きようかと考える機会になるからです。

死んだら、おしまい

しかし、どう生きようかと考えたところで、死んだら、すべておしまいなら、生きることには何の意味があるのでしょうか。

正直に真面目に生きていくことが、馬鹿らしくさえ思えて、「生きているうちに、できるかぎり楽しもう」と。これもむなしいことです。

聖書は何と教えているか

人は、体だけで存在しているのではなく、霊を内側にもっています。聖書は、死について、どのように教えているのでしょうか。肉体の死は、その人が消えてなくなってしまうことではありません。体から霊が分離する瞬間です。いのちの実体は霊の方にありますので、霊が離れた体は動かなくなり、土に帰ります。他方、霊は、その人の意識を持ち続け、死後の世界に移ります。

生き方で死後の世界が変わる

神を否定する生き方をするか、神を信じる生き方をするか、あなたのこれからの生き方により、死後の世界の行先が変わります。